

令和5年度ジャパンリンクセンター運営実績

令和6年3月29日
ジャパンリンクセンター運営委員会

1. 委員会、メンバーミーティングの実施

(1) ジャパンリンクセンター運営委員会

ジャパンリンクセンター運営委員会を合計4回開催した。また、その議事要旨をジャパンリンクセンターのwebサイトで公表した。

(2) 「対話・共創の場」(メンバーミーティング)

令和6年1月25日に「対話・共創の場」をオンラインにて開催した。なお今回はメンバーミーティングと統合しての開催となった。

2. サービスの開発、運用および管理

(1) サービスの開発・調査等

次の開発、改修、調査等を行った。

① 情報登録機能および情報提供機能の改修

「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」(令和3年4月27日 統合イノベーション戦略推進会議)で提言されている研究データのメタデータ共通項目のうち、これまで JaLC では登録できていない項目を追加するとともに、情報提供機能(OAI-PMH等)でそれらを出力できるよう改修した。令和6年3月27日リリース。

② Crossref 登録処理の改修

CrossrefにRORを含めた著者所属機関のIDを登録できるようにし、また、助成情報の一部(Crossref Funder IDがない場合)についても助成機関を登録できるようにする改修を実施中。令和6年4月以降リリース予定。

③ DOI 大量登録対応に係る調査

令和4年度から実施しているDOI大量登録の実証実験の結果を受け、DOI登録数の増大に比例して性能劣化を引き起こす機能の原因調査を実施した。

(2) 運用

引き続きシステムの安定運用、脆弱性対応、サポート切れが近いソフトウェアのバージョンアップ等への対応を、実施した。

① アプリケーション等のバージョンアップ

令和 6 年度中にサポート終了(EOL)を迎える Java やアプリケーションフレームワークについてバージョンアップを行い、新バージョンで正常に動作するように必要なシステム改修を行った。

② 保守期限を迎える機器のリプレース

保守期限を迎えるバックアップ機器について機器をリプレースし、新環境で稼働するために必要な設定・移行作業を行った。

3. DOI 登録機関連業務

(1) DOI 登録業務

過年度に引き続き、正会員の入会対応および準会員への DOI prefix の払い出しを行った。その結果、会員数、DOI 登録件数は、表 1 のとおりとなった。

表 1. 会員数および DOI 登録累計件数の推移 (令和 6 年 3 月末時点)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
正会員数	25	29	37	43	49	56	63	73	76
準会員数	1,131	1,518	1,814	2,060	2,250	2,463	2,681	2,968	3,168
DOI 登録件数 (内訳)	3,189,377	3,457,584	5,330,029	8,155,335	8,529,611	8,790,850	9,358,545	10,486,703	12,443,707
・論文	2,937,916	3,193,160	4,941,494	6,701,165	7,028,298	7,240,670	7,505,799	7,934,514	8,218,805
・書籍、報告書	248,488	261,175	309,559	1,317,654	1,341,739	1,369,414	1,514,526	2,155,460	2,296,385
・研究データ	1,545	1,719	75,875	133,152	156,000	176,019	332,895	388,951	1,919,089
・eラーニング	1,427	1,520	1,891	2,120	2,321	3,357	3,645	4,521	4,961
・汎用データ	1	10	1,210	1,244	1,253	1,390	1,680	3,257	4,467

- ・ 正会員数、準会員数とも堅調な伸びを示している。正会員は公的研究機関、学会、大学、民間出版社など多彩な機関で構成されており、また準会員は J-STAGE 参加学協会や大学機関リポジトリ等から構成されている。
- ・ 令和 4 年度に続き各会員によって着実に DOI 登録が進められた。主な登録例としては、国立国会図書館（書籍・報告書等約 14 万件）、NII 機関リポジトリ（論文・研究データ等約 4.6 万件）、J-STAGE 利用学協会（論文等約 15 万件）、国文学研究資料館（研究データ等約 3.5 万件）、医学中央雑誌刊行会（論文等約 3.5 万件）など。
- ・ 令和 5 年度は、自然科学研究機構 核融合科学研究所から 120 万件を超える研究データ登録があった。これにより、研究データへの DOI 登録は 190 万件と前年度から 5 倍

増加し、JaLCに登録されたDOI全体に占める割合も4%から15%と増加した。

- ・ 令和5年度よりコンソーシアムへ移行したDataCiteへのDOI登録件数は累計5,542件となった。
- ・ DOI登録件数は1,200万件を突破した。

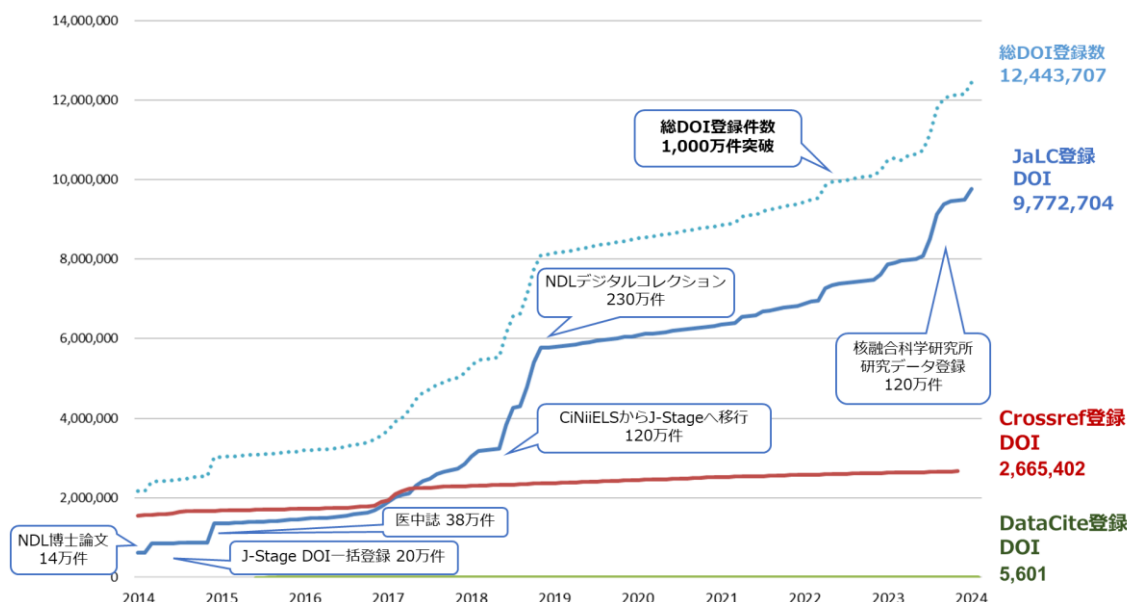


図 1. DOI 登録件数の推移 (令和 6 年 3 月末時点)

(2) 入会対応業務

正会員の入会希望の申し出を受けて、7機関を対象に入会説明やデータ登録デモを行った。以下 3 機関が新たに入会し(昨年度に入会説明会を受けている機関を含む)、計 76 機関となった (入会打合せを行った 2 機関は来年度正会員入会予定)。また、準会員として 216 機関が新規で入会した。

[新規正会員]

- 一般社団法人 関東連合産科婦人科学会
- 公益財団法人 日本眼科学会
- 独立行政法人情報処理推進機構(IPA)

4. その他、JaLC の運営に関する一切の事務¹⁾

(1) JaLC 運営に関すること

- ・ ジャパンリンクセンター新ストラテジーのロードマップ策定

令和 5 年 3 月に公開した「ジャパンリンクセンター新ストラテジー2023-2027」のロ

1) ジャパンリンクセンター運営規則第2条2項5号

ッドマップを作成した。ロードマップは、ストラテジーの各アクションを実現するための具体的な実施事項をとりまとめたもの。WEB サイトにて公開。

- DOI Foundation 対応

定期会合（オンライン・6週間ごと）、年次会合（オンライン）、年次会合（対面・ライドン）に参加し、運営に関する協議や Web サイト・DOI Handbook 更新のレビュー等を実施した。

(2) 会員への対応、サービス・情報提供

- DataCite 有料化における対応

令和 5 年 4 月に DataCite Japan Link Center コンソーシアムとしての運用を開始した。令和 6 年 2 月現在 10 機関がコンソーシアムに参加している。コンソーシアムへの移行に伴う DataCite の有料化に対応し、今年度よりコンソーシアム機関への利用料の請求を開始した。

- DOI 登録マニュアルの改訂

研究データの登録マニュアルについて、会員からの要望を受けて XML フォーマットガイド【研究データ】と Web インターフェース版【研究データ】を改訂した。

- スキーマ定義ファイル（XSD ファイル）の公開

XML ファイルを使用して DOI 登録するための XML スキーマを定義する XSD ファイルを令和 5 年 7 月より公開。XSD ファイルを活用することにより、JaLC に登録しようとする XML ファイルについて登録前に簡易的な検証を行うことができる。

- 類似性チェックサービスの開始

論文等の剽窃(類似性)チェックを行うためのオンラインサービス（Turnitin 社、iThenticate アイセンティケート）の JaLC 会員向けの提供を令和 5 年 9 月より開始した。令和 6 年 3 月時点で 7 刊行物（6 機関）が利用している。

(3) 海外の情報サービス機関との連携

Open Citations、CHORUS、Unpaywall との連携を開始した。

- OpenCitations の OpenCitations Index に JaLC DOI が付与されたコンテンツに記載された引用情報、約 40 万件が取り込まれた。

- CHORUS は令和 5 年 9 月以降資金配分機関情報を保有する JaLC DOI コンテンツの取り込みを月次で行い、CHORUS の各研究機関ダッシュボード及び資金配分機関ダッシュボードに反映されている。令和 6 年 2 月現在、約 1,200 件が CHORUS に掲載。

- Unpaywall は JaLC DOI コンテンツの取り込みを実施、残作業として OA 種別の情報を付加後にリリースされる予定。

(4) 普及・広報

- ① 表 2 のとおり DOI の普及・広報を行った。今年度は、オンラインに加え、ハイブリッド開催も定着した。

表 2. 令和 5 年度の普及・広報

主催イベント
JaLC 説明会 (令和 5 年 12 月 20 日、オンライン) 理解を促進し会員間の議論を活性化することを目的に、今回初の試みとして「JaLC 説明会」を開催し、DOI や JaLC の基礎的な事項や DOI の登録・活用事例、登録方法などについて説明やデモを行った。講義資料・動画は WEB サイトで公開。
ジャパンリンクセンター「対話・共創の場」(令和 5 年 1 月 25 日、オンライン) 「JaLC の今昔について」をテーマに話題提供講演やパネルディスカッションを行った。
共催・関連イベント、発表など
JOSS2023 (令和 5 年 6 月 19 日-23 日、オンライン) セッション D3 「ジャーナル論文だけじゃない！日本の全ての研究成果物の PID (永続的識別子) 登録を目指して」を DataCite と共催 (6 月 22 日)。事務局から「研究データへの DOI 登録を推し進める JaLC の取り組み」の発表を行った。
Webinar: Better Together: The Great Varieties of PIDs and How to Use Them: Navigating the Persistent Identifier Landscape (令和 5 年 9 月 23 日、オンライン) DataCite 主催の APAC 向け Webinar にて、事務局から「Japan Link Center with PID connection」の発表を行った。
JCK 会合 (令和 5 年 10 月 19 日-20 日、市ヶ谷 TKP) JST・中国科学技術情報研究所 (ISTIC)・韓国科学技術情報研究院 (KISTI) が情報交換や人材交流を目的に 1 年半ごとに開催する会合。事務局が参加し、海外連携の状況などについて発表した。
RDUF 公開シンポジウム (令和 5 年 12 月 4 日、JST 東京別館・オンライン) RDUF 会員や小委員会、部会による活動、成果物等の紹介や、研究データの利活用に係る招待講演等を行った。
Persistent Identifiers Towards Open Science in Japan (and the Asia-Pacific Region) (令和 5 年 12 月 12 日、JST 東京別館)

<p>DataCite/ORCID 主催のイベントを共催。また、事務局から「JST Information Services working with PIDs featuring Japan Link Center and researchmap」の発表を researchmap 事務局と共同で行った。</p>
<p>カレントアウェアネスへの寄稿 (NO.359 2024 年 3 月発行) 事務局より、カレントアウェアネスへ JaLC10 周年を記念した記事「ジャパンリンクセンター (JaLC) の歩みと今後の展望」を寄稿した。</p>
<p>その他</p>
<p>DataCite APAC Community 四半期毎に開催される JaLC を含むアジア RA、ORCID、豪州 ARDC、DataCite による APAC のコミュニティー DataCite APAC Expert Group Meeting に事務局より参加した。</p>

② JaLC NEWS の配信

JaLC 正会員に向けて、令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月の第三水曜日に JaLC NEWS (メールマガジン) を配信し、サービスのリリースやイベント情報等について情報提供を行った。

— 以 上 —